

みちのく
ココロと
カラダの
癒し旅

達人の旅指南
第102回
フリーライター 加藤隆悦

秋田県
由利本荘市

安楽温泉

百年の歴史持つ隠れが宿

時の移ろいとともに人々が欲するものにも変化が生じ、ことに観光や行楽の面では、飽きられないよう hands を変え品を変え新奇な工夫を凝らしていかなければならない。

その一方で、早くから庶民の心をつかんだものには、むしろ変化を求めず、いつまでもこのままでいてほしいと、願わずにはいられないものも

ある。

由利本荘市の旅館・安楽温泉も、そんな温泉宿の一軒だ。

自然湧出していて単純鉄冷鉱泉を地域の製材所から潤沢に手に入るおがくずで加温して銭湯、湯治宿として開湯したのが明治32（1899）年。その後、大正5（1916）年に経営者が代わり、湯治、銭湯を廃して、旅館と料理店として再出発した。百年余りの長い歴史



露天風呂もささにごりのしょっぱい強塩泉



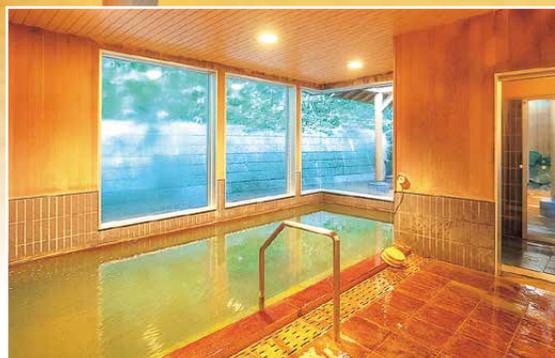
温泉ロビーは昭和テイスト

史を持つ宿だ。

本荘由利周辺の人であれば冠婚葬祭や会食宴会等で利用したことのある人も少なくないかもしれないが、広域には特に宣伝していないこともあり、ちょっとした「隠れが宿」のおもむきもある。

ずっと使い続けていた単純鉄冷鉱泉の湧出量が減ってきたため、新たに新源泉を掘削して平成22年にナトリウム―塩化物強塩泉を掘り当てた。湯はそれに切り替えたが、温泉旅館と料理店の商いは昔から変わらない。地域の人たちに親しまれてい

て、12月の忘年会シーズンや3月の送別会シーズンなどは大忙しになる。



竹林を背にした大浴場にはナトリウム―塩化物強塩泉の湯が満たされる



レストラン棟と宿泊棟は廊下でつながり、小宴会場が並ぶ

別荘気分で泊まりたい宿

安楽温泉は、旅の宿としてはもちろん、旅行というほど大げさでなくとも、たまにおいしい料理を食べて天然温泉に浸かっただけのんびりとした休日を通したい(しかもできるだけリーズナブルに...)という方にもうってつけだ。

宿では、平成23年の東日本大震災直後に被災者の受け入れを行ったが、それが落ち着いてから約1年近くを費やして宿泊棟の改築に着手した。個人住宅に近い感覚の建物だが、大きな段差はスロープで埋め、ホームエレベーターも設置して、足腰



プライベート感覚でゆったりとくつろげる部屋付き風呂

内風呂付きの部屋はツインベッドの和洋室

正乗寺の鳴き竜の下で
手をたたいてみたい



の弱いお年寄りや車いすでも移動しやすい造りにした。大浴場に近接して、車いすでも利用できる多目的トイレも設けている。普段散歩く機会の少ないお年寄りを連れて出掛けたい宿でもある。

全13室中、3室が部屋に天然温泉浴室が付いている。部屋はツインベッドと畳の間がある和洋折衷タイプ。自分の別荘気分でこんな部屋に泊まっただけのんびり休日を過ごしてみたいかがだろう。

この宿に泊まることの一番の楽しみは料理。象潟や金浦で獲れた旬の魚介を中心に、新鮮な地場の食材がふんだんに並ぶ。同伴者と語らいながら、ゆつくりと会食を楽しみたいもの。

最寄り駅はJR羽越線の羽後本荘駅になる。送迎は応相談となっている。
宿から車で5分ほどの曹洞宗正乗寺(由利本荘市藤崎藤代131)には、日光東照宮のものに似た「鳴き竜」の天井絵がある。その下で手をたたいて、竜の鳴き声に例えられる反響音を確かめよう。
(文・写真IIかとうりゅうえつII秋田市)



1刺身盛り合わせ 2象潟産アマダイのソテー カリカリに焼いたうろこと 3象潟産メバルの煮付け 4秋田由利牛のサーロインステーキ 5象潟産アワビの水貝 6近海首長カレイの天ぷら

安楽温泉名物・鮭のそば蒸



安楽温泉

ANRAKU-ONSEN

〒015-0868 由利本荘市大堤下4

TEL.0184-22-0637

<http://anrakuonsen.com/>

※各種宿泊プランがあります。詳細はホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

